

# 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2021年8月12日

## 注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2022年3月期第1四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

# 業績概要<sup>1</sup>

【億円】	21年3月期	22年3月期	対前四半期
	4Q	1Q	
売上高	2,947	3,295	+348
営業利益	▲202	351	+553
マージン	▲7%	11%	+18pt
当期純利益	▲210	123	+333
マージン	▲7%	4%	+11pt

## 補足情報

減価償却費 <sup>2</sup>	1,096	1,055	▲41
PPA影響 <sup>3</sup>	▲269	▲240	+29
法人税等費用	▲126	62	+188

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第1四半期におけるEBITDAは、営業利益351億円に減価償却費1,055億円を加算した1,406億円となりました。
3. Pangeaによる旧TMCの買収と台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。営業利益からPPA影響を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第1四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益351億円からPPA影響▲240億円を除外した591億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益123億円からPPA影響▲240億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて290億円となりました。

が、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第1四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益351億円からPPA影響▲240億円を除外した591億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益123億円からPPA影響▲240億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて290億円となりました。

# ハイライト (1/2)

## 足元の実績及び動向

	21年3月期 4Q	22年3月期 1Q
出荷量 <sup>1,2</sup> (QoQ)	1桁%台半ばの 増加	1桁%台後半の 増加
販売単価 <sup>1</sup> (¥, QoQ)	1桁%台後半の 下落	10%台前半の 上昇

1. 記憶容量ベース

2. Solid State Storage Technology Corporation社のSSDに  
使用された第三者のNAND型フラッシュメモリを含まず

- 第1四半期連結会計期間の売上収益は、前四半期比で+12%と市場伸長率並みの増収
- データセンターSSD向け出荷量は好調を維持、エンタープライズSSD向け出荷量も復調傾向。加えて、スマートフォン向け出荷量も増加したことで、総出荷量は前四半期に引き続き増加
- NAND型フラッシュメモリ市場の需給バランスの改善を受けて、販売単価は4四半期ぶりに上昇

## 製品開発・技術開発

- BiCS FLASH™第5世代製品の量産を開始
- 研究・技術開発の強化を目的に横浜テクノロジーキャンパス技術開発新棟と新子安研究拠点を新設することを公表

### 市場動向及び見通し

- NAND需要は、在宅勤務やオンライン学習等の普及を背景に全般に高水準を維持、データセンターSSDの需要が引き続き好調で、エンタープライズSSDの需要も設備投資の増加により回復が継続。スマートフォン向けの需要も、高速通信規格「5G」の拡大を背景に、コロナ禍による落ち込みからの回復傾向が継続。
- 一部で部品不足による生産調整の懸念はあるものの、NAND需給状況は今年後半にかけて引き続き安定的に推移するという見方が一般的
- NAND市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない

**KIOXIA**